

第684回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2026年6月度 ——

◇ 議題

<ラジオ番組>

「ミヤリサン製薬 ラジオ劇場 下町やぶさか診療所」

放送日時：毎週月曜 午後6時30分～

◇ その他

2026年6月8日（月）開催

九州朝日放送株式会社

第684回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2026年6月8日(月) 15時30分～16時50分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 7名

副委員長	森	慎二
委員	副田	智幸
委員	サーズ	恵美子
委員	小柳	美佳
委員	林田	真心子
委員	松瀬	萌々香
委員	菊池	文隆

欠席委員数 1名

委員長	山根	久資
-----	----	----

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森	君夫
取締役 報道制作局長	大迫	順平
執行役員 総合編成局長	柴田	高宏
広報室長	原	由美子
総合編成局編成戦略部 ラジオ事業部長	坂本	守
総合営業局ラジオ営業戦略部 番組プロデューサー	原田	昌史
総合編成局次長 兼 番組審議会事務局長	武藤	礼治
番組審議会事務局 (総合編成局)	松永	俊郎

4. 議題

- (1) ラジオ番組「ミヤリサン製菓 ラジオ劇場 下町やぶさか診療所」
放送日時：毎週月曜 午後6時30分～
- (2) 6月・7月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 5月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 下町の診療所を中心にした人と人とのつながりや支え合いを描く王道の人情ドラマで、ラジオというメディアの特性を生かした作品だった。
- 単なるホームドラマではなく、社会での孤立や病気への差別などの社会問題も織り込まれており、様々な人間模様から温かさを感じる番組だった。
- 1話15分と短く、テンポも良いので心地よく、リラックスして聞くことができた。非常に贅沢な時間だと感じた。ラジオドラマの魅力を再認識した。
- 医師・看護師・患者・地域住民など、登場人物のキャラクターが立っていて人間味が感じられた。それぞれの特徴が上手に表現されており、どんな人物かをイメージすることができた。
- 名優である橋爪功さんの演技には安定感があり、安心して楽しむことができた。主人公を橋爪さんとするキャスティングはこの作品にピッタリだと思った。
- 橋爪功さん演じる真野麟太郎の人間味溢れる存在感が大きく、「馬鹿なことを言い合っただけで大笑いすることが一番の薬」という価値観は現代社会への提案になっていた。
- 効果音やBGM・エンディングテーマ、各俳優の声の質やトーンが適切で、音声だけでも下町の空気感や温かさが自然に伝わった。
- 冒頭でこれまでのあらすじが流れるので、毎回の内容をより深く理解することができた。
- 近年、ラジオドラマを制作しない放送局が増えた印象があるが、ラジオ文化やオーディオドラマの発展という意味で、地方局がラジオドラマを制作する意義は十分にあると思った。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- ストーリーにスピード感がなくやや予定調和的に感じた。
- 人物や地域が昭和的に描かれ古さを感じた。違う描き方で失われたものを表現し問いかけるようにはできないのかと思った。
- 登場人物の紹介が年齢ありきであることに違和感を覚えた。

- 麟太郎の人となりを表すのにあまりイメージが良くない言葉が用いられている点が気になった。
- 麻世が性被害を打ち明ける場面について、原作の表現をそのまま用いたのか、放送媒体として表現を配慮したのかが気になった。
- エンディングの曲が長いと感じた。もう少しストーリーの方を聞きたいと思った。
- ホームページなどで登場人物の紹介や関連図を掲載してはどうかと感じた。
- なぜ、浅草を舞台とする作品を選んだのかと疑問を感じた。
- 想定するリスナー層と **KBC** がラジオドラマを手掛ける狙いを知りたいと思った。
などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- **KBC** では以前から「北方謙三 水滸伝」や「下町ロケット」など、メッセージ性のあるドラマを手掛けている。「下町やぶさか診療所」では“生きることのすばらしさ”をテーマに番組を制作している。
- 本作は7話から9話で一つのエピソードになっており、聞き逃してもすぐに次のエピソードが始まる。冒頭でテーマを伝えて一話でも満足してもらえるようにしている。
- せりふ中心のラジオドラマは想像力が求められる。リスナーに負担なく聞いてもらえるよう工夫している部分は **KBC** のラジオドラマの特徴だと考えている。
- 人物紹介が年齢ありきだったのは、(視聴いただいたのが) 1話から6話だったから。人物紹介のため年齢を強調して紹介せざるを得なかった。
- 原作者の作風や世界観を大切にしているので、少し誇張された表現もあったと思う。
- 麻世が性被害を打ち明ける場面は、原作ではもう少しリアルな表現になっているが、本作ではマイルドな表現になるよう演出上の修正を行った。
- シナリオの改編は、原作者と出版社、**KBC** で十分な議論を交わしている。原作者のこだわりを大切にしながら、修正が必要な場合は慎重に確認している。
- エンディングは本作のために制作いただいた。少し長いかもしれないが、歌詞も作品に絡んでくるので、しっかり聞いてほしいという思いがあり、あえて長めにしている。
- 人物紹介や関連図をホームページに掲載することは早急に対応したい。
- 本作は全国発信を想定し制作しており、「ご当地性」の優先順位は高くない。むしろ、世の中に何を伝えたいのかということを優先して作品を選んでいる。
- 主なリスナーは中高年のサラリーマン。リアルタイムかタイムフリーかという聞き方によって属性は異なっている。
- ラジオドラマを手掛けることにより、いろんなタレントとルートができるので、本作に出演したタレントをゲストにした別の番組を展開することなどもある。
- 本作の様にメッセージ性のあるドラマコンテンツは非常に貴重だと感じている。こうしたノウハウをこれからも社内に残していけるよう努めたい。

などの説明をしました。